



コンクリートメンテナ
ス協会（徳納武使会長）は
19日、コンクリート構造
物の補強・補修に関する
フォーラム2016を仙台
市の仙台国際センターで開
いた。約250人の参加者
が、東北地方整備局道路部
道路保全企画官の山口満氏
や、同協会技術委員長の江
良和徳氏らの講演を通じ

250人が最新の動向や技術を学ぶ

コンクリート構造物の補強・補修フォーラム

コンクリート協会
コンメン

て、コンクリート構造物の
補強・補修を取り巻く最新
の動向や技術を学んだ。

このフォーラムは、コン
クリート構造物の補強・補
修に関する情報共有を目的
として全国10カ所で開催。
締めくくりとなる宮城会場
で、徳納会長は「これまで
のコンクリート補修は対処

療法がメインだったが、老
朽化の現状を定量的に把握
した上での補修を通じて、
構造物の寿命を延ばすこと
が重要。このフォーラムが
構造物の長寿命化に役立つ
ことを願っている」とあい
さつした。

講演で東北整備局の山口
氏は、コンクリート構造物
の老朽化に関する東北の現
状として▽2015年度時
点の点検実施率は、道路橋
が30割、トンネルが33割
▽損傷傾向は、鋼橋では腐
食・床版損傷、PC橋では
剥離・鉄筋露出が多い▽床
版の新たな劣化形態とし
て「土砂化」が見受けられ
る▽自治体への支援とし
て、三島大橋（福島県三島
町）で直轄診断と修繕代行
事業、沼尾シエッド（福島
県下郷町）で修繕代行事業
を実施した—ことなどを報
告。その上で「維持・補修
に配慮した設計が必要」と
訴えた。

また、同協会技術委員長
の江良氏は、劣化状況に
応じた補修工法選定の基本
的な考え方を解説。この中
で江良氏は、塩害による劣
化とアルカリシリカ反応に
よる劣化について①潜伏期②
進展期③加速期④劣化期—
といった劣化過程に応じ
て、それぞれ講じるべき対
策を具体的に示した。